

2018年度(2019年3月期) 決算説明会における主な質疑応答

※本資料については、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

【会社全体に関するご質問】

〈中期経営計画について〉

Q 今回計画における戦略投資枠について、前回計画の1,000億円から500億円に減少している理由を教えてください。

A 戦略投資枠が減少しているのは、前回計画の1,000億円から、この1年間で具体化したプロジェクト等に係る設備投資等の500億円を成長投資に振り替えたためである。その主なものは、2018年7月に当社グループを含むコンソーシアムが開発事業者として選定された「うめきた2期地区開発計画」に関する投資である。同計画は、2024年夏頃に先行まちびらきを、また2027年に全体まちびらきを予定している長期にわたるプロジェクトであるが、そのうち今回の計画期間である2021年度までに見込まれる投資額について、今回計画において成長投資に振り替えている。また、同計画以外にも、当社グループの企業価値の向上に資する案件でこの1年の間に具体化したものについて、戦略投資枠から成長投資に振り替えており、それらが総額500億円になるということである。

Q 今回計画における成長投資について、戦略投資枠から振り替えた500億円以外に、前回計画から100億円増加している理由を教えてください。

A 不動産事業において開発計画が具体的に進捗したことや、情報・通信事業の事業拡大を目的としたM&Aを実施したこと等を踏まえて、投資額を一部見直したことが主な増加理由である。

【各事業に関するご質問】

〈不動産事業に関して〉

Q 梅田地区の再開発について、本日の説明では前回の決算説明会以降に追加された具体的な案件はなかったが、老朽化してきた保有物件の建替計画等について、検討状況を教えてほしい。

A 梅田地区の更なる魅力向上は、当社グループにとって最も重要な課題であると認識しており、同エリアでの老朽化物件の建替計画等を含む再開発については、社内での検討を鋭意推し進めているところである。ただ、そういった計画の具体化には相応に時間を要するので、まだ对外発表できる状況ではなく、今しばらくご猶予をいただきたい。

〈国際輸送事業に関して〉

Q 国際輸送セグメントの 2019 年度の業績予想に、米中貿易摩擦の影響をどのように織り込んでいるのかを教えてください。

A 米中貿易摩擦により、当社グループの国際輸送事業でも、上海の現地法人をはじめ、中国発着の取扱物量が減少する等の影響を受けているので、2019 年度の業績予想には、その影響を一定程度織り込んでいる。ただ、現時点でその影響額や収束時期等について見通すことは非常に難しいので、引き続き事態の推移を注視するとともに、業績への影響を最小限に止めるための対応策を検討・実施していく必要があると考えている。

Q 今後、中長期的には航空輸送の需要が拡大すると思われるが、需要の取込に向けた施策を検討していれば教えてください。

A 当社グループの国際輸送事業は、航空輸送の占める割合が大きいことから、現在、海運事業の強化とロジスティクス事業の拡大等を通じて、バランスのとれた事業ポートフォリオを構築することに注力しており、加えて、エリア別では日本発着中心の現状から、アジア発着の取扱物量の拡大によるアジアを中心とした事業展開へのシフトを図っているところである。国際輸送事業では、取扱物量が事業競争力に直結するため、こうした取組を着実に推し進め、航空貨物をはじめとする取扱物量を拡大させることで、同事業の更なる成長を志向していきたいと考えている。

以上